

肺炎球菌ワクチン(ポリサッカライド)の 接種方法について

厚生労働省 健康局

結核感染症課 予防接種室

平成25年11月18日

第7回予防接種基本方針部会

※ 本資料は技術的検討であり、国民に対して広く接種機会を提供する仕組みとして実施するためには、前提として、ワクチンの供給・実施体制の確保、必要となる財源の捻出方法等の検討を行った上で、関係者の理解を得るとともに、副反応も含めた予防接種施策に対する国民の理解等が必要。

肺炎球菌ワクチンの導入の仕方について

肺炎球菌ワクチン導入時のキャッチアップ等に関しては、7月10日の予防接種基本方針部会で「5歳年齢ごと(65, 70, 75, 80, 85 歳etc.)に毎年接種」とする案が了承されたが、その他の可能性も含め、以下の3案について検討いただきたい。

案1 5歳年齢ごとにキャッチアップを実施

(7月10日案)

案2 高年齢層からキャッチアップを開始し、キャッチアップ終了次第65歳の定期接種に移行

案3 65歳に接種しつつ、高年齢層からキャッチアップを開始

案1. 5歳年齢ごとにキャッチアップを実施

想定接種回数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
対象年齢	65,70, 75,80, 85,≥90	65,70, 75, 80,85,90	65,70, 75, 80,85,90	65,70, 75, 80,85,90	65,70, 75, 80,85,90
総接種数 (千回)	7,544	7,478	7,718	7,881	7,838

- 対象年齢がほぼ一定であるため、運用に混乱が少なく、毎年の接種数の変動も少ない
- 一方、より肺炎に罹患し重症化するリスクが高い、高年齢層の接種が遅れてしまう

案2.高年齢層からキャッチアップを開始し、キャッチアップ終了次第65歳の定期接種に移行

想定接種回数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
対象年齢	≥80	76-80	72-76	68-72	65-68
総接種数 (千回)	7,521	7,186	7,183	7,860	8,709

- 死亡・罹患リスクの高い高年齢者から先に接種することができる
- 一方、より費用対効果が高い65歳から70歳代高齢者への接種が遅れてしまう。また、対象年齢の設定が煩雑になる

案3. 65歳に接種しつつ、 高年齢層からキャッチアップを開始

想定接種回数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
対象年齢	65, ≥85	65, 80-85	65, 76-80	65, 73-76	65, 70-73
総接種数 (千回)	5,402	7,742	8,656	8,061	8,598

- 定期接種の適応となる65歳への接種を開始しつつ、可能な範囲で死亡・罹患リスクの高い高年齢層へのキャッチアップを実施することができる
- 対象年齢の設定が煩雑になる